

第 14 回東北 MIS_t 研究会 開催報告

2021 年 1 月 24 日（日）、第 14 回東北 MIS_t 研究会をオンラインにて開催いたしました。今回はコロナ禍の影響で MIS_t 地方会としては初めてのオンライン開催ではありましたが、一般演題 30 題、参加者 150 名以上となり、過去にない大きな規模の会となりました。東北地方に限らず全国各地から多くの先生方に多数の演題発表ならびに御参加を頂いたことに心より深謝申し上げます。

本会では MIS_t から MIST へ演題発表の内容を拡大し、従来の MIST 手術手技のみならず、診断、理学療法や薬物療法などの保存治療、周術期管理、新規の技術・治療の安全な普及、手術のピットフォールと対策、リハビリテーション、医師・コメディカルの教育などを含めたより広い領域で、非常に有意義な御発表を数多くいただきました。御陰様で参加者の皆様と貴重な情報共有と大変活気のある深いディスカッションができました。

また特別講演では、済生会横浜市東部病院 運動器センター長 福田健太郎先生より「骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術治療戦略」について横浜からリモートで御講演を賜りました。骨粗鬆症の保存治療から BKP など低侵襲治療はもとより、福田先生の開発された新しい LIF を応用した術式とその良好な治療成績について、非常に興味深い御講演を頂くことができました。

一般演題はいずれもレベルの高い演題内容でしたが、その中から Best Presentation Award を佐賀大学 森本忠嗣先生の「抗菌性を有する新規椎体間ケージの短期治療成績」、新潟中央病院 勝見敬一先生の「最新の脊椎ナビゲーション手術の光と影。新たに生じた問題とその対策」が受賞されました。また Best Discussor Award は 仙台西多賀病院の山屋誠司先生、弘前大学の浅利享先生がそれぞれ受賞されました。

今回は ZOOM アプリを用いたオンライン開催で、どの地域からでも遠隔で簡単に参加し発表・討論が可能であり、オンラインの利点を最大限に活かした新しい形式の会となりました。参加された皆様全員の多大なる御協力のお陰でオンラインとは思えないほど、参加者からの熱気が伝わる非常にライブ感のある、学術的にも内容の濃いとても有意義な会になったと感じております。皆様のご協力にあらためて厚く御礼申し上げます。初めてのオンライン開催であったため、至らない点が多々あったかと存じますが何卒ご容赦いただければ幸いです。

最後になりましたがコロナ禍での本会の開催にあたり、共催いただいた企業の皆様のご尽力にこの場をお借りして深謝申し上げます。次回の東北 MIS_t 研究会は 2022 年 1 月に福島県立医科大学の渡邊和之先生が当番世話人で開催される見込みとなっております。つきましては、次回開催時も全国から多数の先生方に御参加頂きますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

第 14 回東北 MIS_t 研究会

当番世話人

東北医科薬科大学 整形外科

菅野 晴夫

